

基本目標	施策の方向性	施策	
1 福祉の「心」をはぐくむ	1 地域福祉についての意識の醸成	1 地域福祉の重要性についての情報発信 2 福祉教育の推進	
	2 地域の関係を深めるきっかけづくり	1 隣近所で顔の見える関係づくり	
	3 市民が活動・交流できる場の提供	1 高齢者や障害のある人、子育て家庭の居場所づくり	
		2 多世代交流の促進	
2 地域福祉を進める「人」をつくる	1 活動の担い手の育成	1 活動に取り組むきっかけづくり 2 担い手の裾野の拡大	
		2 福祉を進める活動主体者への支援	1 ボランティアセンター、市民・協働ステーションの充実 2 団体活動の支援
	3 地域福祉推進の「しくみ」をつくる		1 必要な人に必要な支援を届けるための体制の充実
		2 多様な主体の参画促進	
3 小地域福祉活動の推進		1 地域のコミュニティ機能の強化	
		2 地域におけるコーディネート機能の強化	
4 安心・安全の「環境」をつくる	1 自立を促す支援の推進	1 生活困窮者への支援	
	2 共に生きるまちづくりの推進	1 共生社会の実現に向けた理解の浸透	
		2 バリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進	
		3 外出支援の推進	
	3 権利擁護対策の推進	1 権利を守る支援策の利用促進	
		2 虐待やDVの早期発見・早期対応	
	4 防災・防犯対策の推進	1 災害時に備えた地域体制づくり	
		2 地域における防犯体制の整備	

江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画施策体系(案) 見え消し

基本目標	施策の方向性	施策
1 支え合い、助け合いの心を育てる福祉の「心」をはぐくむ	1 地域福祉についての意識の醸成	1 地域福祉の重要性についての情報発信
		2 福祉に関するイベントの開催 施策1に統合
		3-2 福祉教育の推進
	2 地域の関係を深めるきっかけづくり	1 隣近所で顔の見える関係づくり
		2 地域組織への加入促進
	3 市民が活動・交流できる場の提供	1 高齢者や障害のある人、子育て家庭の居場所づくり
2 多世代交流の促進		
2 市民協働で福祉を進める地域福祉を進める「人」をつくる	1 福祉を進める人づくり活動の担い手の育成	1 ボランティア活動への参加促進 活動に取り組むきっかけづくり
		2 担い手の裾野の拡大
		3 地域活動に取り組むきっかけづくり 施策1に統合
	2 福祉を進める活動主体者への支援	1 ボランティアセンター、市民・協働ステーションの充実
		2 団体活動の支援
		3 民生委員・児童委員活動の活性化 施策2に統合
	3 小地域福祉活動の推進	1 地域コミュニティ機能の強化
		2 小地域福祉活動の基盤づくり 基本目標3の3へ移動
	4 市民が活動・交流できる場の提供	1 高齢者の居場所づくり
		2 障害のある人の居場所づくり
		3 子育て家庭の居場所づくり
		4 多世代交流の促進 基本目標1の3へ移動
3 支援の輪をひろげ、つながる地域福祉推進の「しくみ」をつくる	1 総合的な相談支援体制の充実 必要な人に必要な支援を届けるための体制の充実	1 相談窓口の充実と周知 総合的な相談支援体制の充実
		2 福祉サービスの利用支援
	2 福祉サービスの利用支援	1 福祉サービスの資質向上
		2 福祉サービスに関する情報発信 施策の方向性1に統合
	3 2 多様な主体の参画促進 4 地域の情報を支援につなげる住組みづくり 3 小地域福祉活動の推進	1 総合事業の拡充
		1 地域のコミュニティ機能の強化
2 地域におけるコーディネート機能の強化		
4 社会的孤立を防ぐ 4 安心・安全の「環境」をつくる 5 安心して心豊かに暮らせる地域をつくる	1 自立を促す支援の推進	1 生活困窮者への支援
		1 外国籍の市民、外国にルーツを持つ市民への支援 共生社会の実現に向けた理解の浸透
	2 困難を抱える人への支援のネットワークづくり 共に生きるまちづくりの推進	2 ひきこもり・ニート等の人への支援 施策の方向性1に統合
		3 子どもの貧困、高齢者の貧困等への支援 施策の方向性3へ移動
		4 虐待やDVの早期発見・早期対応 施策の方向性3へ移動
		2 バリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進
	3 権利擁護対策の推進	3 外出支援の推進
		1 権利を守る支援策の利用促進
	4 防災・防犯対策の推進	2 虐待やDVの早期発見・早期対応
		1 災害時に備えた地域体制づくり
3 生活に不便がある人への見守り・外出支援	2 地域における防犯体制の整備	
	1 外出支援 施策の方向性2へ移動	
1 防災・防犯対策の推進 2 権利擁護対策の推進 3 人にやさしいまちづくりの推進	2 高齢者への見守り 施策の方向性4へ移動	
	1 避難行動要支援者への支援体制の整備	
	2 地域の防災力の強化 基本目標4の4へ移動	
	3 防犯活動の推進	
1 権利擁護対策の推進 基本目標4の3へ移動		
1 公共施設のバリアフリー化の推進 基本目標4の2へ移動		

基本目標	施策の方向性	統計	アンケート	アンケートの自由記述	団体ヒアリング	地域福祉懇談会	国の動向	施策	備考		
	全体	○少子高齢化の進行 ○支援が必要な人の増加 ○地域ごとの状況の差	【市民アンケート】 問12 近所づきあいの程度 問16 特に支援が必要な対象者 問29 カを入れていくべきこと 【活動主体者アンケート】 問16 地域福祉が進んだと思う点 問18 カを入れていくべきこと		○特に支援が必要な対象者は一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯などが多くあげられている。		「我が事・丸ごと地域共生社会実現本部」の設置により、地域福祉計画の策定が努力義務化される。				
1-1 支え合い、助け合いの心を育てる	1 福祉の「心」をはぐくむ	1 地域福祉についての意識の醸成	【市民アンケート】 問17 支援についての役割分担 【活動主体者アンケート】 問15 役割分担 ●住民参画の必要性についての意識が希薄。	○福祉に関する情報を知る機会がまだまだ少ないと思います。若い世代でも知る機会があればいいと感じます。(女性、22歳、古知野西) ○小・中学生のときから、学校教育として高齢者や障害者とふれ合うのが当たり前、手助けするのが当たり前とってくれるようになってくれるとよい。子どもの頃から遊んでいると偏見を持ちにくくなると思う。特別支援学校の近くの学校では交流があるのに、他ではない。(男性、42歳、布袋北)				→	1 地域福祉の重要性についての情報発信 2-1 福祉に関するイベントの開催 2 福祉教育の推進	「2 福祉に関するイベント」は市の取り組みについて記載できないため、「1 地域福祉の重要性についての情報発信」に含める。	
		2 地域の関係を深めるきっかけづくり	○世帯規模の小規模化の進行	【市民アンケート】 問12~問13-3 ●近所づきあいに満足している人は多いが、近所づきあいへの満足・不満のどちらの理由にも関係の希薄さが挙げられている。	○誰もが気軽に参加出来る、イベントを各地域で行う事によって、自然に住民同士の付き合いができると思います。(子どもの頃はお祭りがあったり、盆踊りがあって、近所大人の方々に子どもの名前をよく知っていましたくらいです)(女性、65歳、古知野西) ○あいさつを始めに声かけあえる地域があれば、いろいろな事業が円滑に運ぶと思う。小学校で上手にできたあいさつも、思春期になると難しくなるのか、大人からの声かけであいさつから話し合いに進み、行動につながっていくと思う。市民全員の一声から、大きな輪・和になれば素晴らしい(区長・町総代)		○運営スタッフの固定化・高齢化が課題。新旧住民の交流不足による、地域のつながりの限定化も背景にある。	→	1 隣近所での顔の見える関係づくり 2-1 地域組織への加入促進	施策として独立させるほど「2 地域組織への加入促進」について取り組みがないため、1に統合する。	
		3 市民が活動・交流できる場の提供			○江南市には、地域の住民が集まる公園が住宅地に少なく、近所の方と顔を合わせる機会もあまりないです。子どもたちや高齢者の方、子育て中の方が自然と顔を合わせ、交流につながる住宅地の公園が必要です。(女性、39歳、古知野南)	○ひとり暮らし高齢者だと活動になかなか興味を持っていただけず、一番参加して欲しい人が増やせない。 ○乳幼児とその親が集う広場に来ている親子はまだ安心だが、人と交流をしない孤立した子育てをしている親子をどうサポートしたらよいか。子育てと介護の両面で悩んでいる家族のサポートもできたらと思う。	○少子化により、親子同士の交流の場が不足している。 ○高齢者、特に男性の高齢者が楽しめる交流の場がない。	→	1 高齢者や障害のある人、子育て家庭の居場所づくり 2-1 障がいのある人の居場所づくり 3-1 子育て家庭の居場所づくり 2 多世代交流の促進	施策の方向性3は、基本目標2の4から移動。 施策2、3を1にまとめる。	
2-1 市民協働で福祉を進める	2 地域福祉を進める「人」をつくる	1-1 福祉を進める人づくり 1 活動の担い手の育成	【市民アンケート】 問23 ボランティア活動活性化のために必要なこと ●気軽に参加できる活動の場づくりが多く回答されており、ボランティアを身近に感じられるような工夫が必要。 問15 困りごとを抱えている家庭にできる手助け ●「見守り」「非常時の手助け」が多い。年齢ごとにはできる支援も異なっている。高齢期前の世代であってもできることはある。新たな人材発掘・育成が必要。	○夏休みに1つでもいいので小・中・高校生がボランティア活動が経験できる様になれば大人になってからも社会の中で活かせるのではないのでしょうか。(女性、65歳、宮田)	○ボランティア活動を主体的かつ継続的に取り組む事ができる仕組みが必要。特に継続性の困難さについては有償化することが解決につながるのではと考える。			→	1 ボランティア活動への参加促進 →活動に取り組むきっかけづくり 2 担い手の裾野の拡大 3-1 地域活動に取り組むきっかけづくり	ボランティア活動と地域活動をわけず、「1 活動に取り組むきっかけづくり」でまとめる。	
		2 福祉を進める活動主体者への支援	【活動主体者アンケート】 問11 ●活動主体者の活動上の困りごとは「担い手不足」。	○過去の民生委員が行っていたような活動ができない時代となった。サービスを受ける側の考え方も変化している。活動全般について難しい。サービスを受ける側が、隣近所との接触を持っていない。(民生委員・児童委員)	○活動への参加者の拡大が求められている。そのための情報提供、周知啓発に係る支援が求められている。			→	1 ボランティアセンター、市民・協働ステーションの充実 2 団体活動の支援 3-1 民生委員・児童委員活動の活性化	3を2に統合する。	
		3 小地域福祉活動の推進							→	1 地域コミュニティ機能の強化	3-5へ移動。
		4 市民が活動・交流できる場の提供							→	2 小地域福祉活動の基盤づくり	1-3へ移動。

基本目標	施策の方向性	統計	アンケート	アンケートの自由記述	団体ヒアリング	地域福祉懇談会	国の動向	施策	備考
	全体	○少子高齢化の進行 ○支援が必要な人の増加 ○地域ごとの状況の差	【市民アンケート】 問12 近所づきあいの程度 問16 特に支援が必要な対象者 問29 力を入れていくべきこと 【活動主体者アンケート】 問16 地域福祉が進んだと思う点 問18 力を入れていくべきこと		○特に支援が必要な対象者は一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯などが多くあげられている。		「我が事・丸ごと地域共生社会実現本部」の設置により、地域福祉計画の策定が努力義務化される。		
3 地域福祉推進の「しくみ」をつくる	1—総合的な相談支援体制の充実 1 必要な人に必要な支援を届けるための体制の充実		【市民アンケート】 問9-1、問10 ●相談できる場がある人は半数程度。 問18-1、問18-2 ●福祉サービスについての情報を入手できている人は多くない。	○福祉サービスを受ける際に、情報の入手程度により、格差が生まれているように感じます。もちろん、情報は公平に出しているとは思いますが、誰もが分かりやすい方法という点においては、もう少し工夫して頂ければありがたいです。（女性、54歳、草井） ○誰に相談したらいいかわからない事が多い。困り事などの内容で何度もいろんな所にたらい回しにされる。（男性、43歳、古知野東）	○情報はあふれるほどあるのに、どれを選べばよいか分からないという声をよく聞く。子育てに不安のある保護者、障害や弱さのある子への手立てや支援が、私たちにできることだと思う。		総合的な相談窓口の設置	1—相談窓口の充実と周知 1 総合的な相談支援体制の充実 2 福祉サービスの利用支援	
	2 福祉サービスの利用支援							1 福祉サービスの資質向上 2 福祉サービスに関する情報発信	施策の方向性1に統合する。
	2 多様な主体の参画促進	○担い手の減少 ○介護保険の費用増			地域が進めるといっても、素人が前に立って進めていくことがとてもできない。できる人がいても、周りの協力が得られないと難しい。市や社会福祉協議会に支援を求めている。		生活支援コーディネーターの配置、協議体の設置	1 総合事業の拡充	
	4—地域の情報を支援につなげる仕組みづくり 3 小地域福祉活動の推進				○需要側と供給側が出会える機会をいろいろな方法で設けていく必要があると考える。需要側の情報収集方法と供給者情報提供方法が異なる場合があるため。 ○江南市内にあるいろいろな団体とつながりたい。地域エリアで情報を伝達する仕組みを作り、江南市ネットワークを活用して道に迷った人を助けたり、ゴミ屋敷にならない生活を支援したい。	○地域で困りごとを抱えている人の情報が不足している。特に集合住宅に住んでいる人の状況は把握しづらい。また、魅力的な活動があっても、その内容が十分に伝わっていない。そのために、需要と供給にミスマッチが生じている場合がある。		1—地域の情報収集 2—コーディネーター機能の強化 1 地域コミュニティ機能の強化 2 地域におけるコーディネーター機能の強化	基本目標2-3と基本目標3-4を統合する。
4 社会的孤立を防ぐ	1 自立を促す支援の推進	生活保護世帯の増加。					生活困窮者自立支援制度の開始。 ひきこもり・ニートなどの新たな社会問題、子どもや高齢者の貧困の増加への対応。	1 生活困窮者への支援	
	2—困難を抱える人への支援のネットワークづくり 2 共に生きるまちづくりの推進	外国籍児童の状況 児童扶養手当		子どもの頃から福祉をきちんと理解し体の不自由な人、老人に恥ずかしがらず、声かけ、手助けができることが当たり前となる とよい。 (女性・54歳・草井地区)		○交通手段の不足により、地域活動の活性化に影響が出ている。良い場・活動があっても、交通手段がないために参加できない人も多い。	差別解消法の施行により、よりきめ細かな配慮が元られる。	1—外国籍の市民、外国にルーツを持つ市民への支援 2—ひきこもり・ニート等の人への支援 3—子どもの貧困、高齢者の貧困等への支援 4—虐待やDVの早期発見・早期対応 1 共生社会の実現に向けた理解の浸透 2 バリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進 3 外出支援の推進	ひきこもり・ニート、子どもや高齢者の貧困については施策の方向性1「自立を促す支援の推進」に移動。 虐待防止の取り組みは、権利擁護に移動。
	3 権利擁護対策の推進	認知症高齢者数の増加 知的・精神障害者数の増加					差別解消法の施行。	1 権利を守る支援策の利用促進 2 虐待やDVの早期発見・早期対応	基本目標5-2から移動。
	4 防災・防犯対策の推進		【市民アンケート】 問14 ●近所の人にしてほしいこととして、非常時の手助けや見守りが多くあげられている。 問23 ●地域でのつながりが必要だと感じるときは、災害、防犯関係で多い。	○近い将来起こりうる災害に備え、近隣とのつながり、助け合いは必要なのですが、昔のような付き合いは少なくなっている気がします。 (女性・54歳・古知野南地区) ○毎年各地で「防災訓練」が行われているが、いざというときの行政あるいは地域単位での「救援隊」制度がどうなっているかが不明である。(民生委員)			1—避難行動要支援者への支援体制の整備 2—地域の防災力の強化 3—防犯活動の推進 1 災害時に備えた地域体制づくり 2 地域における防犯体制の整備		
	3 生活に不便がある人への見守り・外出支援							1 外出支援 2 高齢者への見守り	外出支援は施策の方向性2「共に生きるまちづくりの推進」へ、高齢者の見守りは施策の方向性4「防災・防犯対策の推進」に移動。
5 暮らし安心地域をつくる	1 防災・防犯対策の推進							1 避難行動要支援者への支援体制の整備 2 地域の防災力の強化 3 防犯活動の推進	基本目標4に移動。
	2 権利擁護対策の推進	認知症高齢者数の増加 知的・精神障害者数の増加					差別解消法の施行。	1 権利擁護対策の推進	基本目標4に移動。
	3 人にやさしいまちづくりの推進							1 公共施設のバリアフリー化の推進	基本目標4の施策の方向性2「共に生きるまちづくりの推進」に統合。